

技術士受験体験記

2018年5月

西村 直泰（電気電子部門（情報通信）、2009年取得）

10年近く前のことなので、今、受験しようとする方の役に立つことは少ないかもしれませんが、以下、私の受験体験記をご覧ください。

1. 受験に至る経緯

私は1982年（昭和57年）、日本電信電話公社に入社し、自動車電話や携帯電話などの無線通信の電話機（移動機と呼んでいた）の開発などに従事していた。技術士という資格は、かなり以前から聞いたことはあったが、自分が取得することはないと考えていた。自分では中小企業診断士資格を取得したいと考えており、平成17年から受験を開始していた。

平成18年、NTT（日本電信電話株式会社）グループ企業である株式会社NTTドコモの地域子会社である株式会社NTTドコモ関西（現NTTドコモ関西支社）において、法人営業SE部門の担当部長に従事していたときのことである。建設業法に定める監理技術者資格を有する社員が、数年後には退職により社に存在しなくなることから何らかの対策が必要とされた。この時に施策の1つとして私が提案したのが「技術士資格」の取得である。これは、NTT在職時に1年先輩が同じ理由で技術士資格を取得されていたことを知っていたことから提案したものである。もちろん、建設業法対策としてだけでなく、若手技術者の意識と意欲向上のための施策としても優れていることを強調して提案を行った。事前の根回しもしっかりと行ったことから、施策は採用され、若手社員に周知徹底を図り受験を促した。

しかし、平成18年の技術士1次試験を受験する社員が出現せず、施策がピンチに立たされたため、やむを得ず、自分で受験することとした。やはり、誰か一人でも受験しないと、誰も経験したことのないものは受験できないものだったのである。翌平成19年の技術士1次試験を受験することとなった。

2. 技術士試験以前の試験対策

前置きが長くて申し訳ないが、さらにもう1つ、私が重要だと考える受験対策上の前置きを記載する。

全く非科学的な話で恐縮であるが、私は、人には流れがあると感じているタイプである。良い流れの中にいる時は、全く苦勞せず良い成果が手に入るが、流れが悪い時には、苦勞が報われないことが多いと感じている。そして、平成19年当時の私は、平成15年頃から続く悪い流れのなかに居たことから、このままでは頑張っても技術士1次試験に合格できないのではないかと心配していた。

流れを変えるためのきっかけを何かしないといけない。大きな流れは変えにくいので、試験に合格するという流れだけでも変えようと、実にセコイことを考えた。題して「連続試験合格作戦」である。

自分にとって相性の良い試験を選んで連続して合格することで技術士試験を突破しようというものである。

まず受験したのが第1級アマチュア無線技士の試験である。趣味に関するものであるが、この

試験では高校1年生までに第2級アマチュア無線技士を取得していたので、残りはこの第1級アマチュア無線技士。実のところ定年後に受験するつもりでいたが、まず楽勝と考えられるため受験（受験時に試験免除の科目がある）。1つ目の合格を獲得（平成19年1月）した。

続いて工事担任者試験（A I / DD総合種）である。これはNTTグループに在籍していた関係で工事担任者試験（アナログ/デジタル総合種）まで取得していたので、かなり楽勝の試験（やはり受験時に試験免除の科目がある）であり、こちらも合格を獲得（平成19年6月）した。

この勢いを駆って技術士1次試験（平成19年10月）に立ち向かうこととした。

3. 1次試験対策

1次試験では、試験要綱をよく読むと、電気電子部門と同時に総合技術監理部門も受験できることが分かったので、どうせ受けるならと考え、両部門を受験することとした。

NTTグループでも、他の大手企業と同様に、研修プログラムが多くあり、その1つとして通信教育の無料受講が可能である。通信教育のなかに「技術士1次試験対策講座」がありこれを活用した。どこの通信教育会社のものであったか忘れてしまったが、普通の通信教育会社の講座であった。しかしこの講座は受験には全く役に立たなかった。過去の試験問題からすると、当時の1次試験は、内容としては大学2年生程度までに習う基礎的なものが多いと感じたので、そのような教科書は社会人になり全て捨てていたので、近隣の市立図書館で専門書を借りて復習した。

大学受験の時から、特定の科目で得点を稼ぐパターンではなく、各科目から適当に得点を稼ぐパターンを得意としていたので、なるべく、大学時代等に習ったことを思い出しながら、専門書をザッと読むようにした。また、これも高校時代から得意にしていたことだが、SFの本なら、欧米人の書く長大なSFでも1日に1冊は楽勝で読めるようにしていたため、多読は得意であったことが役に立った、というか、自分の得意な事の全てを生かすことだけを考えた。以上が電気通信部門に関する受験対策であるが、総合技術監理部門に関しては、行程管理や安全管理のような出題が多く、試験内容が普段の仕事どおりであったので、ほとんど受験対策は行わなかった。

「連続試験合格作戦」で流れを作ったためか、技術士1次試験は電気電子部門、総合技術監理部門とも合格することができた。しかし、この良い流れは、中小企業診断士2次試験（平成19年10月）で途切れることとなるのである。

4. 2次試験対策

2次試験対策（論文）（電気電子部門）のポイントは3つである。

1つ目は、NTTグループのNTTアドバンステクノロジー株式会社の通信教育「技術士試験突破対策講座」の存在である。この会社の通信教育は論文試験対策が基本となっており、論文の書き方を覚えるのに非常に役に立つものであると思う。なぜこの会社が「論文の書き方」を教えられるのかというと、技術士2次試験の論文の書き方がNTTグループの論文の書き方とほぼ同一であるからである。私も若手技術者であった時代に、NTTグループ流論文の書き方を教え込まれているため、「論文の書き方」を修得する時間が不要であったことは有利に働いたと考えている。

2つ目は、（公社）日本技術士会近畿本部の1次試験合格者のための懇親会で知り合った受験仲間である。この会で知り合ったある合格者から2次試験模範解答論文を皆で手分けして作成し、受験対策を行おうという話を貰い、仲間に加えていただいたことである。多くの模範解答を貰うことで、自分の苦手分野の情報を自分で調べ論文にまとめる手間が減ったことは大いに役立った。また、自分が模擬回答を記述する時には、図書館の資料の他、インターネットを大いに活用した。

間違った情報も多いので注意は必要であるが、時間短縮につながることは確かである。ところで、この仲間には大変感謝している。しかも、私はこの後、一発合格して先抜けしているで、大変恐縮ものである。

3つ目は、試験用紙一杯に必ず文字を埋めることである。論文なんて、必ずしも本題への回答だけで試験用紙一杯にならないことがある。あまりの部分に結語みたいな「この技術を今の仕事にこのような応用したい」みたいなことを必ず書くこととし、この結語部分を3～7行程度、可変にすることで試験用紙一杯に見せかけるのである。

以上の3ポイントで、無事、2次試験対策（電気電子部門）は合格した。

しかし、2次試験対策（総合技術監理部門）は、正直なところほとんど手をつけられておらず、当然、不合格となってしまった。

2次試験対策（口述）のポイントは、NTTアドバンステクノロジーの「技術士試験突破対策講座」の続編として行われる「口述試験対策模擬試験」の受講である。模擬試験会場として「フォーラム8」を使って行われる本格的なものである。私はNTTグループで東京近辺の勤務が長く、渋谷界隈はある程度知っていたが、生憎「フォーラム8」は入館したことがなかった。場所があらかじめ分かることの安心感は何とも言えないものであった。口述試験自体は他の資格で慣れているので、あまり困ることはないと考えていた。

2次試験（口述：電気電子部門）は実に早く終わり、無事、合格することができた。

5. 試験対策のための時間の確保について

これから受験しようとする人にとって、一番気になるのが「勉強時間の確保」ではないかと考える。

これに関しては私の技術士試験受験の時より、消費生活アドバイザー資格受験のときのことを語ったほうが適切だと考える。なぜなら、技術士試験受験は50歳直前くらいの時期であり、子供も大人となっており、遊びに連れて行くなどと心配しなくても良かったからである。

消費生活アドバイザー受験時は、28歳～35歳のときに合計3年間、受験勉強を行っている。当時の消費生活アドバイザー試験は科目が多く11科目くらいあったと思う。内容も洗濯表示とか、栄養学の一部のビタミンの種類と含有野菜などという電子工学とは無関係のものもあり、インターネット普及以前であったため、何で調べれば良いかすら分からず非常に困った。結局、いろいろと嫁さんに聞いて勉強したが、どうもこれが家族（特に嫁さん）に好評だったように思う。要するに受験勉強に巻き込んでしまうほうが良い結果を生むのではないかと思うのである。また、子供がいる場所で勉強する姿を見せると、結構、子供も自分でできる勉強？（絵本を持ってきて、私の隣で絵本を読み出すなど）を一緒にするので、その間、嫁さんからすると、子供から手が離れるので、意外と面倒なことにならなくて済んだようである。ただし、この方法は1回につき、短時間しか効き目がないので、少し勉強したら、ノートなどは片付けて、しばらくは遊んであげる必要がある。ここで注意すべきことは、ノートなどは片付けないと、子供が勝手にノートに絵を書き出ししたりすることである。

以上の私の受験体験記で、少しでも参考になる点があれば、ありがたいと思います。